出　張　報　告

報告日　令和6年10月1日

会　派　名	日本共産党柏崎市議員団
報告者氏名	持田　繁義
種　　別	□調査研究（□行政視察）　■研修会　□要請・陳情　□各種会議
用　　務	原発問住民運動全国連絡センター主催　「老朽原発・全ての原発の廃炉を求める」全国交流集会in敦賀に参加
日　　時	令和6年9月21日(土)　～　令和6年9月22日(日)
場　　所 (会　　場)	福井県敦賀市ニューサンピア敦賀
概　　要	・福井県若狭湾周辺に立地する原発と関連施設の現地視察 ・原子力発電の技術上の課題、老朽原発問題の研修 ・令和6年能登半島地震の影響と原子力発電所の課題の研修 ・原子力発電所を巡る住民運動等の交流 ・南海トラフ巨大地震域に立地している浜岡原発、伊方原発、川内原発等の危険性の確認
所　感　等	・「若狭湾の老朽原発を見る」として、現地見学が行われた。 すぐ目の前に、敦賀原発、もんじゅ、美浜原発が、風光明媚な若狭湾に林立、しかも漁港と海水浴場とともにある異常な光景を見る機会となった. 同時に、若狭地域の自然のなかでの人間活動、くらしを刻みこんできた歴史に思いめぐらし、日本の原風景を想像していた。 ・複雑な日本列島は地震の連動も起こりえること。しかし詳細の解析が進んでいない。地震が頻発する上に、技術的に未完成な原発が日本列島に林立している。これで安全といえるか。言う方が無理というものではないか。 日本の学術発展にブレーキをかけ原発を開発している様を確認できた。 ・老朽原発の運転は極めて危険であること。原子炉圧力容器の脆化が進み、点検や交換が難しい配管の劣化、減肉・腐食、金属疲労に加え、電気ケーブルの劣化・損傷なども進み、事故のリスクが高まることが指摘される。原発の稼働延長などあり得ない。現役世代と将来世代に対して本当に責任が持てるのか。 ・各地からの様々な教訓的な報告と交流が行われた。目先の利潤を追求するなかに危険を増幅する原発路線の転換、国民のための「エネルギー民主主義」の実現へ、未来を指し示す貴重な研修となった。

ての原発の廃炉を求める」全国交流集会in敦賀
：9月22日 10:00~16:00
：ニューサンピア敦賀
朽原発の危険を語る」
元原発設計者
後藤　政志
老朽原発・全ての原発の廃炉を求

敦賀原子力館
日本原子力発電㈱
敦賀原子力館
Tsuruga P.R. Pavilion
見学記念
2024年9月21日